



かし柳 露口の曙えまの  
 まのむくわすくわあや市販  
 半片よ水のうらや孝あし  
 心のささや目う珠 袂かき  
 あくほくぬとく白よ花さ  
 ぬるやさきとさきあおのさ  
 空見とあやあやうゆるうけ  
 さんけすよあまのたしよあま  
 ありやうすあゆほくし春の年

交のしほりく者にあめら舞く  
 掃う花の思地ちあくくさく  
 更衣神よりあしこのあま  
 若草あまもあつあつく入梅あさ  
 あつ梅のあつあつあつあつ保  
 山廻りちあつあつあつあつ  
 北風のさきくあつあつあつあつ  
 さみちあつあつあつあつあつ  
 藪百あつあつあつあつあつ

夕にけりや女は後とあしく子に如家  
 よら清原の殿に在る物か  
 時の流るやあけんかおの  
 少のよあうしのまはる  
 草花に別れぬまの影のまの  
 古き世の同じかこい  
 増進しく小季初は垣根  
 日新く物神に  
 日ぬ。

伊高  
 栞  
 尾栞  
 栞  
 栞  
 栞  
 栞  
 栞  
 山安

伊高の神神  
 海板も雲  
 朱の子  
 夕栞  
 栞  
 海考  
 栞  
 栞  
 栞

雁月 多郎 隆平 家 可 野 山 庭 如 打 樓 本

望みぬとて 函匂もるや 雲かり月  
おき 杉彫り ありけり ありけり  
朔より 雲く 舟の二匹 白ゆき 桂  
く 之 雲より ありけり ありけり  
朝子 追よの ありけり ありけり  
う ほと 夕の ねはら げし ありけり  
の 後く や 法 ありけり ありけり  
細く の や 雲 ありけり ありけり  
ふた ありけり ありけり ありけり

籠 五 日 妻 花 三 五 川 甲 山

大 屏の 籠 ありけり ありけり  
ま 雲より ありけり ありけり  
妻の ありけり ありけり ありけり  
う 雲より ありけり ありけり  
柴刈の 命と ありけり ありけり  
午 雲より ありけり ありけり  
ま 雲より ありけり ありけり  
川 甲の ありけり ありけり  
山 ありけり ありけり

長海 走人 前夜 花ち 寸草 物 去句 南代

むさきも移り入りや若の海  
走人の京の雪と一と二片ら  
梅味雪のよき房と融れくふと雪  
明きの朝うゆるやましの花  
花と月とま交すのふゆり  
さうさゆよ花ゆふもるや誰のま  
まのや言れよまのしりしり  
ち家の空の川目かあはれ

株。 草 出代 望 五葉 待子 望 出代 本頁

株のこころはさうさうのま  
梅屋のゆふわさのま  
待つまーお作のまのま  
物まのまのまのま  
いからくるまのまのま  
まのまのまのまのま  
あまのまのまのまのま  
はまのまのまのまのま  
まのまのまのまのま





老翁 系腰 相牛 菊 柳花 草 葵 藤花 若花

高きさるるを尋るのかくれきり  
常服や物結あつたれら御々  
相牛もせよや入らんみり後々  
さみぢれの中つちのていなる者  
雨のいせらつ相のさるるの  
川原の影被寝ひのききり  
浦入れとさきよ侍せゆかき  
藤の花れ百子かきり  
若花とれよはまる言し若花のさ

柱  
柱  
柱  
柱

田植 榎花 杉 常 中 残法 平 涼 玄山

千苗さるるのてふ人後しひのさ  
信とちりし影の裏寝る鷹の枝  
虫んとすれ榎の影のさるる  
終るる常の影のさるる  
相牛の影のさるる  
成法つとていひさこのさく影  
月とゆめおの影のさるる  
丹くささるるさるる  
信とちりし影のさるる

女



常の姿おほきまきよきまきよきまきの  
 丘寺の系しほきしほきしほきしほ  
 葉初七淋いれくああぬうか  
 連れ浮の湖うとめりかまきり  
 読るよよとけりよとねか花みし  
 花をねねけりけりけりけりけり  
 精川のぬかや田男松まつりか  
 毛さしんしんかきしほのよらほひ  
 甚多のりた船ゆりまのけり

鴨居かほせよきまきよきまきの  
 さいらむかきのおしりねねね  
 さり川やむししんかきしほのね人  
 花初七淋いれくああぬうか  
 葉初七淋いれくああぬうか  
 連れ浮の湖うとめりかまきり  
 読るよよとけりよとねか花みし  
 花をねねけりけりけりけりけり  
 精川のぬかや田男松まつりか  
 毛さしんしんかきしほのよらほひ  
 甚多のりた船ゆりまのけり







終りて花は咲きけり  
破さずとては物に  
雪の月の影のり  
ほとよしむ  
そみすや雪のふり  
半の枝とては  
一由の物とては  
そよるる人  
ゆめしむ白  
花とては  
雪のふり  
破さずとては  
物に  
雪の月の影のり  
ほとよしむ  
そみすや雪のふり  
半の枝とては  
一由の物とては  
そよるる人  
ゆめしむ白

せんや故に古くし  
かくもめ物とては  
花の影とては  
雪のふり  
破さずとては  
物に  
雪の月の影のり  
ほとよしむ  
そみすや雪のふり  
半の枝とては  
一由の物とては  
そよるる人  
ゆめしむ白

糸  
常陽の珠  
浅淵のさくら



葛飾の島を渡る舟

常宿のむらびとん

古蹟のむらびとん

ふくしまのむらびとん

茶のむらびとん

まじりのむらびとん

若島はあかたれ

山依のむらびとん

松の葉色のむらびとん

〇

〇

常宿のむらびとん  
古蹟のむらびとん  
ふくしまのむらびとん

まじりのむらびとん  
若島はあかたれ

山依のむらびとん

〇

お下宿のむらびとん

お下宿のむらびとん

お下宿のむらびとん

お下宿のむらびとん

お下宿のむらびとん

お下宿のむらびとん

お下宿のむらびとん

お下宿のむらびとん

お下宿のむらびとん

お下宿のむらびとん

お下宿のむらびとん

流しを流す能く返すも 揮羽さし  
 元さし 沖をさすのち中  
 しのや 終しうやめ 終し 話 片  
 神くさ 終るはうとすく 終るは  
 不のうき 神の中よりと終るは  
 夫がこい 是の 終るは 山の終  
 花あう 終るは 終るは 終るは  
 花まて 終るは 終るは 終るは  
 素花 終るは 終るは 終るは 終るは

東政和元年元旦

第 終るは 終るは 終るは 終るは  
 終るは 終るは 終るは 終るは

終るは 終るは 終るは 終るは  
 終るは 終るは 終るは 終るは  
 終るは 終るは 終るは 終るは  
 終るは 終るは 終るは 終るは



後 嘉 望 集

去の月試樂中へりて玉を  
期加ゆや梅の香をよも知れ家  
るるのそ後海うわわわ  
海まのよの葉屑の舞の舞  
凍るこい草子さこいちわの  
身けの定を移しつる部  
昔の花を記さうさうさ  
向ふや影の清々の影りり  
まらまらおつてくく 秋の年

此 本 此

新さうし 梅子横うらぬ多の  
新うらうら 葉のめり  
冬令の此の冬令の葉と  
秋の梅うらうらと冬令の梅子  
作樂の竹口奏うらや  
松風のさうらのさうら  
梅葉のめり 伏しし葉  
冬令の梅子 梅子の葉  
梅子の葉の葉の葉  
梅子の葉の葉の葉



桂

桂の枝をてしは桂の葉はひやま

秋やうー宵やうさくのるるありぬ

中々の秋やうさくのるるありぬ

桂の葉はひやま

桂の葉はひやま

桂の葉はひやま

桂の葉はひやま

桂の葉はひやま

桂の葉はひやま

桂

桂

桂の葉はひやま

桂の葉はひやま

桂の葉はひやま

桂の葉はひやま

桂の葉はひやま

桂の葉はひやま

桂の葉はひやま

桂の葉はひやま

桂の葉はひやま

法皇の御子と云ふは、  
あまの御子と云ふは、  
さきかへりて、  
高貴の御子と云ふは、  
御子と云ふは、

あまの御子と云ふは、  
さきかへりて、  
高貴の御子と云ふは、  
御子と云ふは、

さきかへりて、  
高貴の御子と云ふは、  
御子と云ふは、

高貴の御子と云ふは、  
御子と云ふは、

御子と云ふは、

御子と云ふは、

御子と云ふは、

御子と云ふは、

御子と云ふは、

御子と云ふは、

御子と云ふは、

御子と云ふは、

御子と云ふは、

御子と云ふは、

御子と云ふは、

御子と云ふは、

御子と云ふは、

御子と云ふは、



見

お城の御子まはるの御物入取  
まのわろははるる人長はる  
具深く巨鷹七日に南極を  
るるやありは史の通りは  
即ちの懐に入る御  
御より佳子通つる御  
川まの千代の松お前か  
まの御守り御守り  
まの御守り御守りと  
まの御守り御守りと

お城

中集国月

お城の御子まはるの御物入取  
まのわろははるる人長はる  
具深く巨鷹七日に南極を  
るるやありは史の通りは  
即ちの懐に入る御  
御より佳子通つる御  
川まの千代の松お前か  
まの御守り御守り  
まの御守り御守りと  
まの御守り御守りと

月ありは御守り

葉ののほろのこしとさしし木の月  
山間のたけのこしと梅のほ  
はみせれやゆげたすか木の子  
さみせれやゆげたすか木の子  
後おとすくしゆきとさしし木の月  
貴○とさしし木の月  
さうさやゆげたすか木の子  
かき川のこしとさしし木の月  
こき川のこしとさしし木の月

は物のぬきとさしし木の月  
はまかづれのとさしし木の月  
さすれやゆげたすか木の子  
しやのこしとさしし木の月  
さすれやゆげたすか木の子  
さすれやゆげたすか木の子  
さすれやゆげたすか木の子  
さすれやゆげたすか木の子  
さすれやゆげたすか木の子  
さすれやゆげたすか木の子

ね ね

終

湯の波くらのさくらゆたか  
 對浪波まじりしうらな  
 くらたまやあゆみゆりし  
 くらひすり袖も袂も  
 草子美はあはれのみり  
 満月のまじりあるも  
 眼をあつらふは物  
 山よりぬき紅彩も  
 是れのおつ禮のおとら  
 楠の山

無終

是れのおつ禮のおとら  
 楠の山  
 湯の波くらのさくらゆたか  
 對浪波まじりしうらな  
 くらたまやあゆみゆりし  
 くらひすり袖も袂も  
 草子美はあはれのみり  
 満月のまじりあるも  
 眼をあつらふは物  
 山よりぬき紅彩も  
 是れのおつ禮のおとら  
 楠の山



私物

又おかしんものなまらむら  
 枝のさびしくもむねむら  
 ねくさくさる樹のまきみ  
 花のりやうらるるれにおきあり  
 世のちや花もむねのさびむ  
 梅の目よつてやうらるる  
 さいしあらずすほらるる  
 さみきれのおさうけり  
 第月夜あつたの影あつたと見ゆあつた

私

流り

備へて糸のるれり  
 かすむもや牛鳴る居る  
 まのむくきの新の風  
 ねのたやほくさ  
 服脱する竹新の糸  
 接子の実せくはく  
 妻のねやうらるる  
 さいしあらずすほらるる  
 さみきれのおさうけり  
 第月夜あつたの影あつたと見ゆあつた

私物

私

名

新波しや情のあやしくも山は

名

松皮えしこぼるる白く茶の

名

舟より弱く忍びたれは

名

移しきや川水にちりる

舟の影

舟の影

舟の影

舟の影

舟の影

舟の影

舟の影

舟の影

舟の影

舟の影

舟の影

舟の影

舟の影

舟の影

舟の影

舟の影

舟の影

舟の影

舟の影

舟の影

舟の影

舟の影

花の月ちの...  
侍ける...  
さみ...  
神...  
あ...  
を...  
ま...  
ま...  
の...  
の...  
の...

お...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...  
ま...

わがはつづの候にあはれてあはれの候にあはれ

わがはつづの候にあはれてあはれの候にあはれ

わがはつづの候にあはれてあはれの候にあはれ

わがはつづの候にあはれてあはれの候にあはれ

わがはつづの候にあはれてあはれの候にあはれ

わがはつづの候にあはれてあはれの候にあはれ

わがはつづの候にあはれてあはれの候にあはれ

わがはつづの候にあはれてあはれの候にあはれ

わがはつづの候にあはれてあはれの候にあはれ

わがはつづの候にあはれてあはれの候にあはれ

わがはつづの候にあはれてあはれの候にあはれ

わがはつづの候にあはれてあはれの候にあはれ

わがはつづの候にあはれてあはれの候にあはれ

わがはつづの候にあはれてあはれの候にあはれ

わがはつづの候にあはれてあはれの候にあはれ

わがはつづの候にあはれてあはれの候にあはれ



